

2023年2月のおでかけ指数

～大都市の人流戻らず鈍い回復

2023年3月15日

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

九経調 DATASALAD (<https://datasalad.jp/>) では、景気、産業、社会に関する政府統計に加え、人流や求人等のビッグデータ・オルタナティブデータを、地域の景気や産業の動向を分析する指標として加工、可視化している。

本稿では、当会が提供している人流モニタリングプラットフォーム「おでかけウォッチャー」(<https://odekake-watcher.info/>) の掲載データ¹の一部を集約した「おでかけ指数²」により、2023年2月における全国の人流動向を分析する。なお、DATASALAD 上では、来訪地側（着地側）と発地側の2種類の「おでかけ指数」を公表しているが、本稿では主に来訪地側を取り上げる。



1. 全国のおでかけ指数：わずかに改善

2023年2月における全国のおでかけ指数は51.6となった（図1）。前年比+36.5%と15カ月連続で前年を上回った。2019年同月比では▲52.4%と、マイナス幅は4カ月ぶりに縮小したものの、回復は鈍い（図2）。新型コロナウイルス感染拡大第8波の感染者数が落ち着いたことや、全国旅行支援が継続されているなど後押しとなる要因はあるが、後者の効果の縮小や、大都市への人流の戻りが弱いことから、全体としては鈍い回復となっている。

図1 おでかけ指数の月次推移（全国）

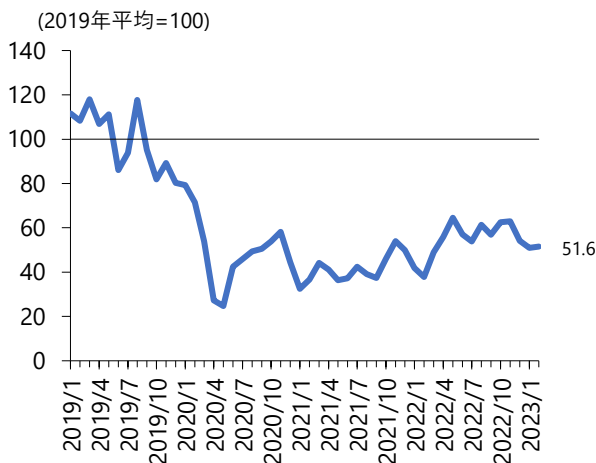
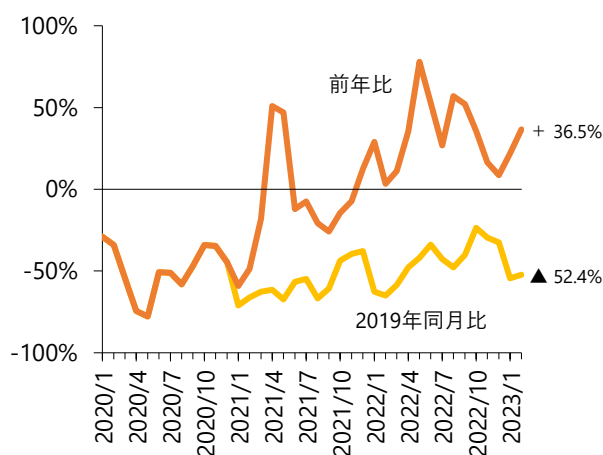


図2 おでかけ指数前年比・2019年同月比（全国）



注) 2023年3月5日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

¹ 「おでかけウォッチャー」で提供している位置情報ビッグデータは、株式会社ブログウォッチャーより提供を受けたものであり、承諾を得たユーザー（月間2,500万MAU）のスマートフォンから取得したものである。インバウンドは含まない。

² おでかけ指数は、新型コロナウイルス感染拡大前である2019年の日平均を100とした指数である。

2. 地域ブロック別のおでかけ指数： 指数は西高東低

2023年2月のおでかけ指数を12の地域ブロック別にみると、指数は沖縄(79.3)、九州(62.3)、四国(58.6)など西日本で高く、東日本で低い傾向がある(表1、表2)。前月同様の傾向で、季節的要因が大きい。

前年比は、前月までと同様全地域でプラスとなった。前年の反動もあって、沖縄(+119.7%)は約2.2倍の人流となっているほか、中国(+44.6%)、四国(+41.5%)、九州(+42.6%)のように西日本の地方圏でプラス幅が大きい。北陸(+54.7%)や北海道(+41.3%)も比較的回復している。

2019年同月比は、沖縄(▲26.8%)、四国(▲34.5%)、北海道(▲38.7%)など地方圏で高く(マイナス幅が小さく)、南関東(▲61.2%)や近畿(▲55.0%)、東海(▲50.5%)など大都市圏で低い(マイナス幅が大きい)傾向が続いている。前月と比較すると南関東以外の11地域でマイナス幅が縮小しており、沖縄、四国、北陸の改善が比較的大きかった。

表1 地域ブロック別おでかけ指数

地域	2023年 2月	2019年	
		前年比	同月比
全国	51.6	+ 36.5%	▲ 52.4%
北海道	53.0	+ 41.3%	▲ 38.7%
東北	51.6	+ 29.0%	▲ 41.3%
北関東	55.7	+ 29.2%	▲ 43.1%
南関東	46.4	+ 35.7%	▲ 61.2%
甲信越	52.8	+ 29.7%	▲ 43.5%
東海	54.9	+ 32.9%	▲ 50.5%
北陸	52.6	+ 54.7%	▲ 41.2%
近畿	49.9	+ 32.7%	▲ 55.0%
中国	55.4	+ 44.6%	▲ 40.2%
四国	58.6	+ 41.5%	▲ 34.5%
九州	62.3	+ 42.6%	▲ 39.5%
沖縄	79.3	+ 119.7%	▲ 26.8%

注) 2023年3月5日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

表2 地域ブロック別おでかけ指数 指数・2019年同月比によるソート

< 指数順 >

< 2019年同月比順 >

順位	地域	2023年 2月	前年比	2019年 同月比
1	沖縄	79.3	+ 119.7%	▲ 26.8%
2	九州	62.3	+ 42.6%	▲ 39.5%
3	四国	58.6	+ 41.5%	▲ 34.5%
4	北関東	55.7	+ 29.2%	▲ 43.1%
5	中国	55.4	+ 44.6%	▲ 40.2%
6	東海	54.9	+ 32.9%	▲ 50.5%
7	北海道	53.0	+ 41.3%	▲ 38.7%
8	甲信越	52.8	+ 29.7%	▲ 43.5%
9	北陸	52.6	+ 54.7%	▲ 41.2%
10	東北	51.6	+ 29.0%	▲ 41.3%
11	近畿	49.9	+ 32.7%	▲ 55.0%
12	南関東	46.4	+ 35.7%	▲ 61.2%

順位	地域	2023年 2月	前年比	2019年 同月比
1	沖縄	79.3	+ 119.7%	▲ 26.8%
2	四国	58.6	+ 41.5%	▲ 34.5%
3	北海道	53.0	+ 41.3%	▲ 38.7%
4	九州	62.3	+ 42.6%	▲ 39.5%
5	中国	55.4	+ 44.6%	▲ 40.2%
6	北陸	52.6	+ 54.7%	▲ 41.2%
7	東北	51.6	+ 29.0%	▲ 41.3%
8	北関東	55.7	+ 29.2%	▲ 43.1%
9	甲信越	52.8	+ 29.7%	▲ 43.5%
10	東海	54.9	+ 32.9%	▲ 50.5%
11	近畿	49.9	+ 32.7%	▲ 55.0%
12	南関東	46.4	+ 35.7%	▲ 61.2%

注) 2023年3月5日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

九州の2023年2月のおでかけ指数は62.3、前年比は+42.6%、2019年同月比は▲39.5%と、いずれも前月より改善した（図3、図4）。

沖縄の2023年2月のおでかけ指数は79.3となり、コロナ禍後（2020年3月以降。以下同様）で最も高い水準となった（図5）。2019年同月比は▲26.8%と再び縮小した（図6）。

図3 おでかけ指数の月次推移（九州）

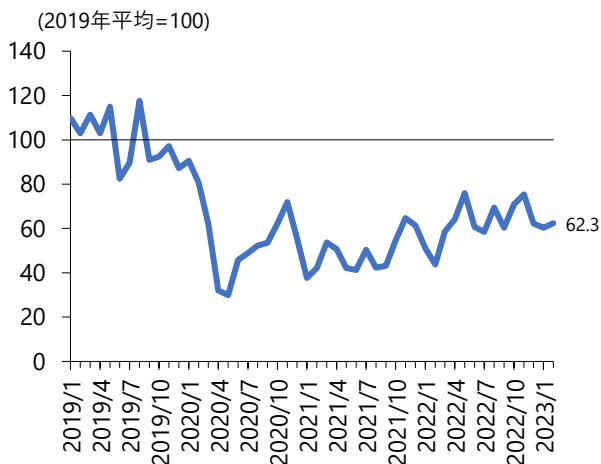
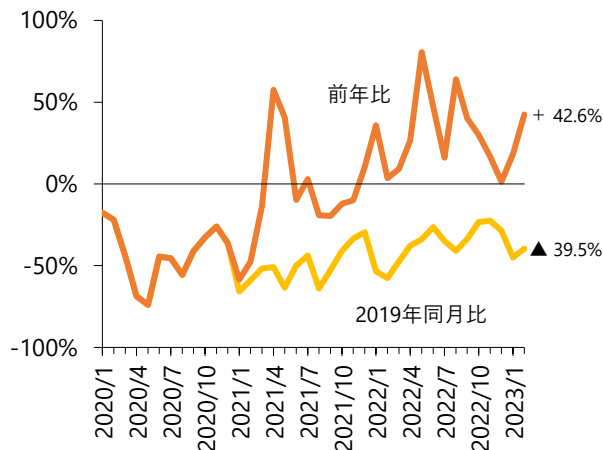


図4 おでかけ指数前年比・2019年同月比（九州）



注) 2023年3月5日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

図5 おでかけ指数の月次推移（沖縄）

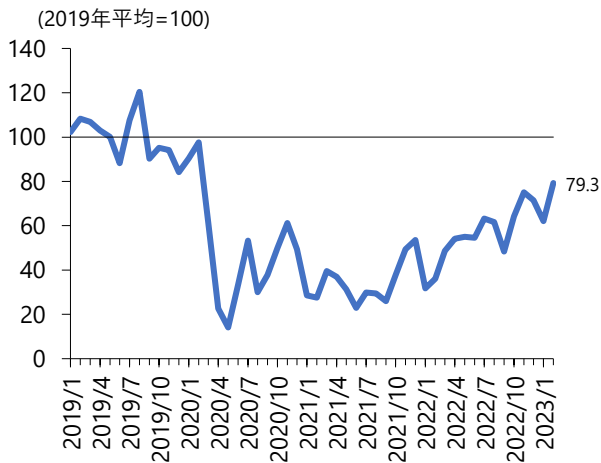
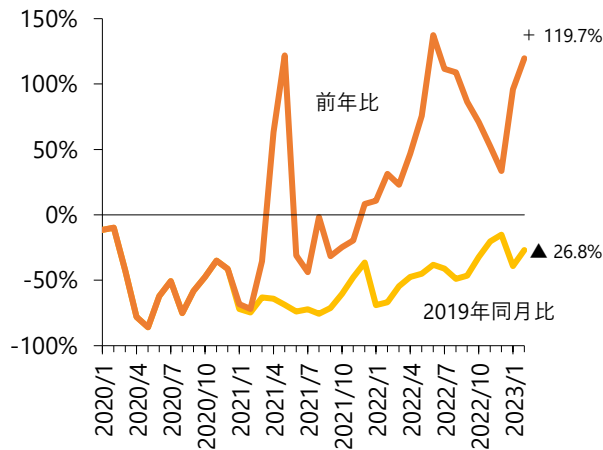


図6 おでかけ指数前年比・2019年同月比（沖縄）



注) 2023年3月5日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

3. 都道府県別のおでかけ指数： 地方圏と大都市で明暗分かれる

2023年2月のおでかけ指数を47都道府県別にみると、指数は概ね地方圏で高く大都市部で低いが、地方圏のなかでは沖縄県（79.3）、宮崎県（71.7）、鹿児島県（66.1）など温暖な九州・沖縄各県が上位で、東北各県などの寒冷・多雪な地域は下位となっている（表3、表4）。

前年比は全都道府県でプラスとなった。感染拡大第6波の影響下にあった前年の反動から、全都道府県で2桁以上のプラスである。前月は東京都、大阪府、愛知県のように前年反動から大都市の伸びが比較的大きかったが、当月は沖縄県（+119.7%）、長崎県（+70.1%）、石川県（+66.7%）など地方圏が上位にきており、観光需要の回復がうかがえる。

2019年同月比は高知県（▲26.0%）、沖縄県（▲26.8%）、島根県（▲28.1%）などやはり西日本の地方圏でマイナスが小さく、コロナ禍前水準への回復が比較的進んでいる。前月と比較すると、43道府県では改善（マイナス幅が縮小）した。一方、埼玉県、東京都、愛知県、大阪府の4都府県では若干ながら悪化（マイナス幅が拡大）した。観光需要の回復に牽引される地方圏と、出張等の需要の戻りが弱い大都市で明暗が分かれている。

表3 都道府県別おでかけ指数

地域	2023年2月	前年比	2019年同月比	地域	2023年2月	前年比	2019年同月比
全国	51.6	+ 36.5%	▲ 52.4%	三重県	53.7	+ 30.3%	▲ 48.3%
北海道	53.0	+ 41.3%	▲ 38.7%	滋賀県	47.3	+ 23.2%	▲ 54.0%
青森県	49.6	+ 31.9%	▲ 34.6%	京都府	51.7	+ 43.6%	▲ 50.9%
岩手県	53.9	+ 23.3%	▲ 36.1%	大阪府	48.5	+ 37.8%	▲ 59.7%
宮城県	51.4	+ 26.6%	▲ 47.4%	兵庫県	49.1	+ 23.1%	▲ 54.3%
秋田県	49.0	+ 32.1%	▲ 36.0%	奈良県	57.1	+ 21.2%	▲ 40.0%
山形県	46.8	+ 32.6%	▲ 43.0%	和歌山県	55.8	+ 26.2%	▲ 38.1%
福島県	55.6	+ 32.1%	▲ 41.0%	鳥取県	50.1	+ 52.7%	▲ 37.0%
茨城県	61.5	+ 30.6%	▲ 38.7%	島根県	54.2	+ 48.1%	▲ 28.1%
栃木県	50.6	+ 27.5%	▲ 43.5%	岡山県	52.9	+ 40.7%	▲ 45.1%
群馬県	53.2	+ 29.1%	▲ 48.3%	広島県	56.1	+ 49.2%	▲ 42.1%
埼玉県	45.8	+ 17.1%	▲ 61.5%	山口県	62.0	+ 36.0%	▲ 35.2%
千葉県	49.6	+ 27.5%	▲ 54.7%	徳島県	55.7	+ 35.2%	▲ 39.8%
東京都	45.1	+ 41.4%	▲ 62.8%	香川県	52.5	+ 38.9%	▲ 43.0%
神奈川県	50.3	+ 31.0%	▲ 57.7%	愛媛県	62.1	+ 51.1%	▲ 29.9%
新潟県	56.8	+ 31.2%	▲ 41.9%	高知県	62.9	+ 35.0%	▲ 26.0%
富山県	52.9	+ 49.4%	▲ 41.5%	福岡県	60.0	+ 42.2%	▲ 43.3%
石川県	53.0	+ 66.7%	▲ 40.7%	佐賀県	62.0	+ 41.9%	▲ 41.4%
福井県	51.5	+ 41.1%	▲ 42.1%	長崎県	65.3	+ 70.1%	▲ 39.2%
山梨県	42.6	+ 27.9%	▲ 47.5%	熊本県	63.7	+ 29.2%	▲ 35.5%
長野県	54.8	+ 28.9%	▲ 43.2%	大分県	59.9	+ 34.6%	▲ 34.4%
岐阜県	52.9	+ 35.3%	▲ 46.6%	宮崎県	71.7	+ 53.2%	▲ 30.9%
静岡県	60.0	+ 37.0%	▲ 45.4%	鹿児島県	66.1	+ 46.9%	▲ 33.8%
愛知県	52.3	+ 30.1%	▲ 55.1%	沖縄県	79.3	+ 119.7%	▲ 26.8%

注) 2023年3月5日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

表4 都道府県別おでかけ指数 指数・2019年同月比によるソート

< 指数順 >

順位	地域	2023年2月	前年比	2019年同月比
1	沖縄県	79.3	+ 119.7%	▲ 26.8%
2	宮崎県	71.7	+ 53.2%	▲ 30.9%
3	鹿児島県	66.1	+ 46.9%	▲ 33.8%
4	長崎県	65.3	+ 70.1%	▲ 39.2%
5	熊本県	63.7	+ 29.2%	▲ 35.5%
6	高知県	62.9	+ 35.0%	▲ 26.0%
7	愛媛県	62.1	+ 51.1%	▲ 29.9%
8	山口県	62.0	+ 36.0%	▲ 35.2%
	佐賀県	62.0	+ 41.9%	▲ 41.4%
10	茨城県	61.5	+ 30.6%	▲ 38.7%
11	静岡県	60.0	+ 37.0%	▲ 45.4%
	福岡県	60.0	+ 42.2%	▲ 43.3%
13	大分県	59.9	+ 34.6%	▲ 34.4%
14	奈良県	57.1	+ 21.2%	▲ 40.0%
15	新潟県	56.8	+ 31.2%	▲ 41.9%
16	広島県	56.1	+ 49.2%	▲ 42.1%
17	和歌山県	55.8	+ 26.2%	▲ 38.1%
18	徳島県	55.7	+ 35.2%	▲ 39.8%
19	福島県	55.6	+ 32.1%	▲ 41.0%
20	長野県	54.8	+ 28.9%	▲ 43.2%
21	島根県	54.2	+ 48.1%	▲ 28.1%
22	岩手県	53.9	+ 23.3%	▲ 36.1%
23	三重県	53.7	+ 30.3%	▲ 48.3%
24	群馬県	53.2	+ 29.1%	▲ 48.3%
25	北海道	53.0	+ 41.3%	▲ 38.7%
	石川県	53.0	+ 66.7%	▲ 40.7%
27	富山県	52.9	+ 49.4%	▲ 41.5%
	岐阜県	52.9	+ 35.3%	▲ 46.6%
	岡山県	52.9	+ 40.7%	▲ 45.1%
30	香川県	52.5	+ 38.9%	▲ 43.0%
31	愛知県	52.3	+ 30.1%	▲ 55.1%
32	京都府	51.7	+ 43.6%	▲ 50.9%
33	福井県	51.5	+ 41.1%	▲ 42.1%
34	宮城県	51.4	+ 26.6%	▲ 47.4%
35	栃木県	50.6	+ 27.5%	▲ 43.5%
36	神奈川県	50.3	+ 31.0%	▲ 57.7%
37	鳥取県	50.1	+ 52.7%	▲ 37.0%
38	青森県	49.6	+ 31.9%	▲ 34.6%
	千葉県	49.6	+ 27.5%	▲ 54.7%
40	兵庫県	49.1	+ 23.1%	▲ 54.3%
41	秋田県	49.0	+ 32.1%	▲ 36.0%
42	大阪府	48.5	+ 37.8%	▲ 59.7%
43	滋賀県	47.3	+ 23.2%	▲ 54.0%
44	山形県	46.8	+ 32.6%	▲ 43.0%
45	埼玉県	45.8	+ 17.1%	▲ 61.5%
46	東京都	45.1	+ 41.4%	▲ 62.8%
47	山梨県	42.6	+ 27.9%	▲ 47.5%

< 2019年同月比順 >

順位	地域	2023年2月	前年比	2019年同月比
1	高知県	62.9	+ 35.0%	▲ 26.0%
2	沖縄県	79.3	+ 119.7%	▲ 26.8%
3	島根県	54.2	+ 48.1%	▲ 28.1%
4	愛媛県	62.1	+ 51.1%	▲ 29.9%
5	宮崎県	71.7	+ 53.2%	▲ 30.9%
6	鹿児島県	66.1	+ 46.9%	▲ 33.8%
7	大分県	59.9	+ 34.6%	▲ 34.4%
8	青森県	49.6	+ 31.9%	▲ 34.6%
9	山口県	62.0	+ 36.0%	▲ 35.2%
10	熊本県	63.7	+ 29.2%	▲ 35.5%
11	秋田県	49.0	+ 32.1%	▲ 36.0%
12	岩手県	53.9	+ 23.3%	▲ 36.1%
13	鳥取県	50.1	+ 52.7%	▲ 37.0%
14	和歌山県	55.8	+ 26.2%	▲ 38.1%
15	北海道	53.0	+ 41.3%	▲ 38.7%
16	茨城県	61.5	+ 30.6%	▲ 38.7%
17	長崎県	65.3	+ 70.1%	▲ 39.2%
18	徳島県	55.7	+ 35.2%	▲ 39.8%
19	奈良県	57.1	+ 21.2%	▲ 40.0%
20	石川県	53.0	+ 66.7%	▲ 40.7%
21	福島県	55.6	+ 32.1%	▲ 41.0%
22	佐賀県	62.0	+ 41.9%	▲ 41.4%
23	富山県	52.9	+ 49.4%	▲ 41.5%
24	新潟県	56.8	+ 31.2%	▲ 41.9%
25	福井県	51.5	+ 41.1%	▲ 42.1%
26	広島県	56.1	+ 49.2%	▲ 42.1%
27	山形県	46.8	+ 32.6%	▲ 43.0%
28	香川県	52.5	+ 38.9%	▲ 43.0%
29	長野県	54.8	+ 28.9%	▲ 43.2%
30	福岡県	60.0	+ 42.2%	▲ 43.3%
31	栃木県	50.6	+ 27.5%	▲ 43.5%
32	岡山県	52.9	+ 40.7%	▲ 45.1%
33	静岡県	60.0	+ 37.0%	▲ 45.4%
34	岐阜県	52.9	+ 35.3%	▲ 46.6%
35	宮城県	51.4	+ 26.6%	▲ 47.4%
36	山梨県	42.6	+ 27.9%	▲ 47.5%
37	三重県	53.7	+ 30.3%	▲ 48.3%
38	群馬県	53.2	+ 29.1%	▲ 48.3%
39	京都府	51.7	+ 43.6%	▲ 50.9%
40	滋賀県	47.3	+ 23.2%	▲ 54.0%
41	兵庫県	49.1	+ 23.1%	▲ 54.3%
42	千葉県	49.6	+ 27.5%	▲ 54.7%
43	愛知県	52.3	+ 30.1%	▲ 55.1%
44	神奈川県	50.3	+ 31.0%	▲ 57.7%
45	大阪府	48.5	+ 37.8%	▲ 59.7%
46	埼玉県	45.8	+ 17.1%	▲ 61.5%
47	東京都	45.1	+ 41.4%	▲ 62.8%

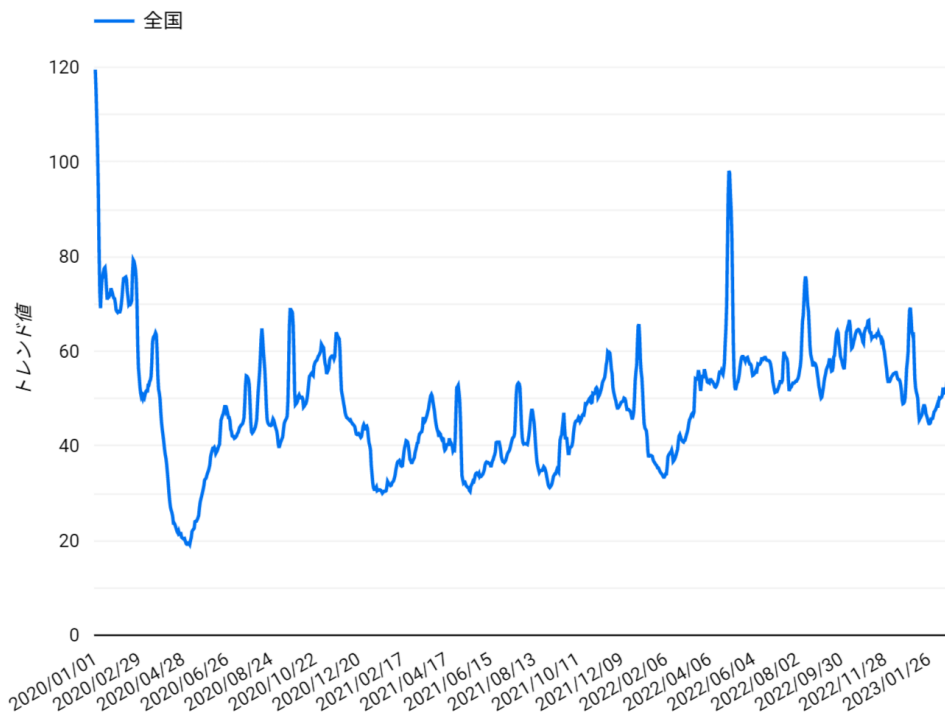
注) 2023年3月5日までのデータによる推計値

資料) 九経調 DATASALAD

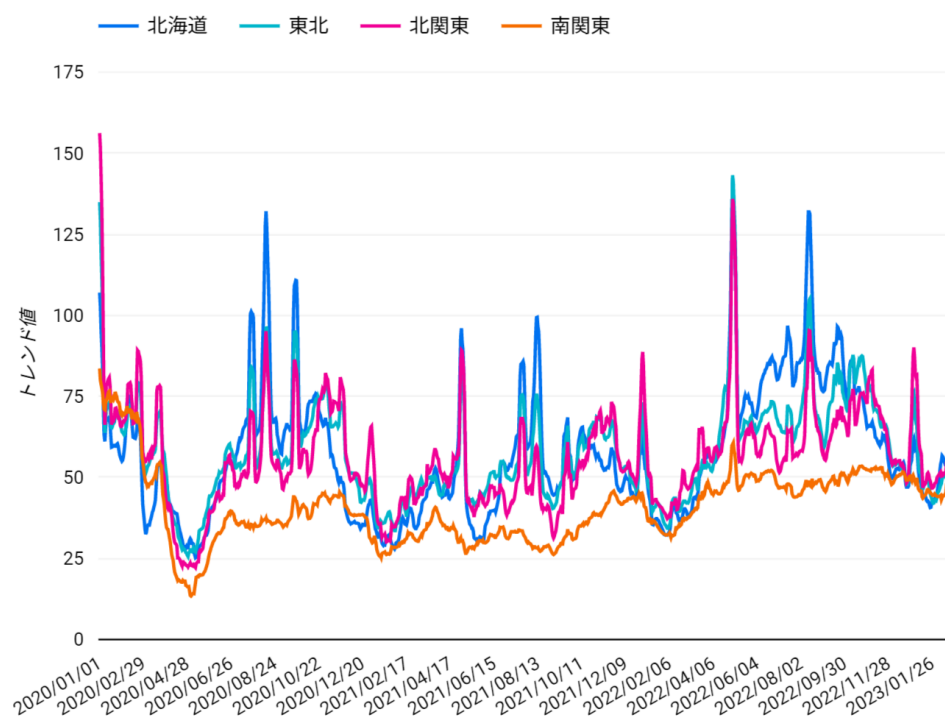
5. 日次推移

図7 地域ブロック別の日次推移（トレンド値）

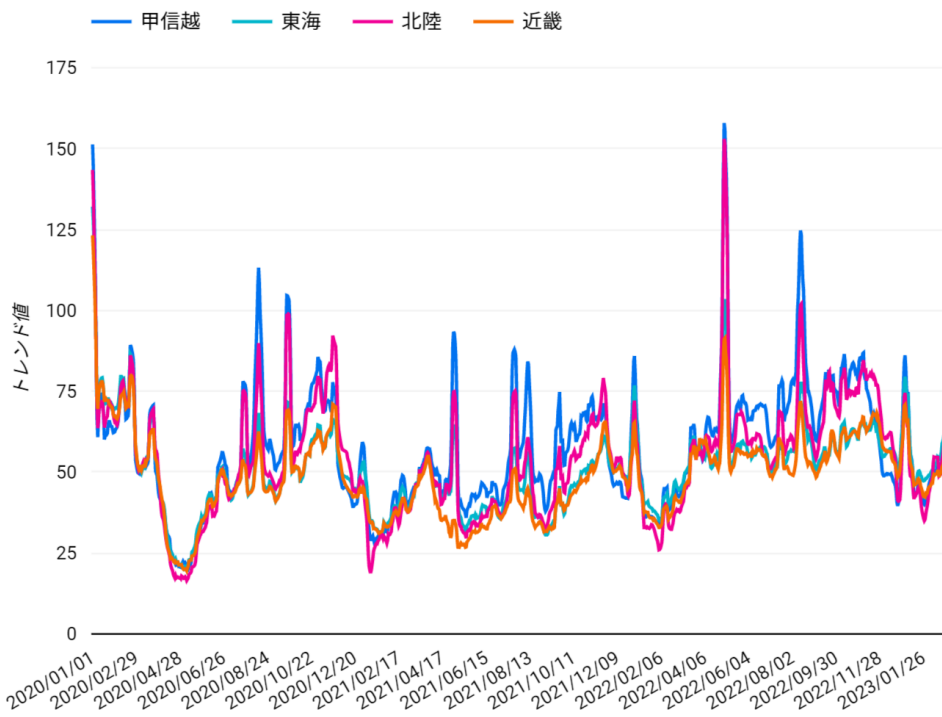
<全国>



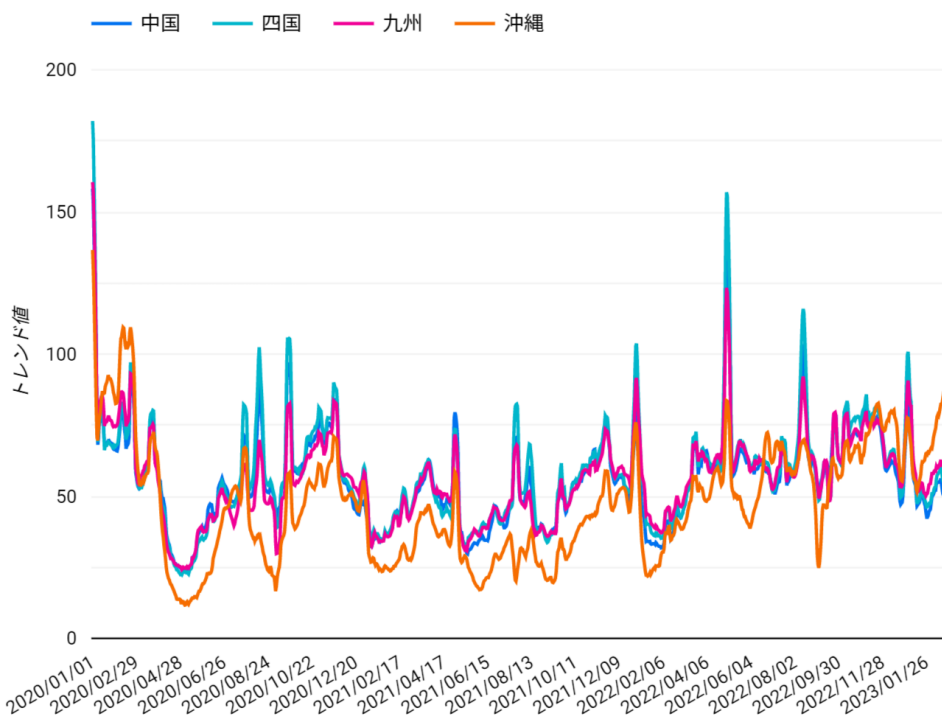
<北海道～南関東>



< 甲信越～近畿 >



< 中国～沖縄 >



注) 2023年3月5日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

小柳 真二 (事業開発部 主任研究員)

E-mail: skoyanagi@kerc.or.jp

参考：おでかけ指数の定義・算出方法

おでかけ指数は、市区町村別の人流をコロナ禍前の 2019 年を基準に指数化したものである。これを、来訪地側（着地側。ある市区町村への来訪者数）と、発地側（ある市区町村（居住地域とみなされる市区町村）からの出発者数）の双方について算出している。具体的には、以下のようなルールである（試作版のため、今後変更の可能性がある）。

①対象期間、公表時期

来訪地側・発地側とも 2019 年 1 月以降である。おでかけウォッチャー（以下、OW）と同じく、毎週月～日曜日のデータを翌木曜日に公表する。

②モニタリングスポット、市区町村ごとのユニーク化

OW では、各市区町村につき最大 20 地点をモニタリングスポットとして設定し、それらの地点のいずれかを訪れた人数を市区町村別来訪者数として算出している（複数地点を訪れた場合も 1 人とカウント）。来訪地側（着地側）のおでかけ指数で用いるのは、この市区町村別来訪者数である。また発地側は同じデータを発地側で集計した人数を基としている。

OW では各市区町村（基礎自治体）がモニタリングスポットを任意の地点に変更できるサービスとしているが、おでかけ指数ではデータの連続性を保つ観点から、OW のリリース時点（2021 年 10 月）に九経調がデフォルトとして設定したスポット（※）を対象としている。

※各市区町村において来訪者数（2019 年のゴールデンウィークにおける 250m メッシュ別の来訪者数）が上位 20 のメッシュを選定した。ただし、選定の際には、より上位のメッシュと隣接（メッシュ中心間の距離が 500m 以内）するメッシュは除外した。

③人流計測の条件

すべての人流が来訪および出発としてカウントされるのではなく、居住地域とみなされる場所から 20km 以上離れた場所で位置情報が一定時間検出された場合、かつそれが通勤・通学のような日常的な訪問地ではない場合という条件がある。

④指数算出地域

②の通り市区町村別にユニーク化した人数を基礎に指数を算出しているため、厳密には市区町村別の指数を参照いただきたい。ただ、より上位スケールの地域間比較等のニーズもあるため、市区町村別の人数を足し上げて都道府県や地域ブロック別の人数を算出し、それをもとにこれらの地域別の指数も公表している。

⑤算出方法

各地域（市区町村や都道府県等）について、2019 年の 1 日当たり平均人数を 100 として、各日の人数を指数化したものを原数値とする。そのうえで、人流には曜日による変動が大きい特徴があり、原数値のままではトレンドをとらえにくいことから、原数値を 7 日間周期のデータとみなし、トレンド成分（中長期的変動）、曜日成分（曜日による変動）、イベント成分（天候やイベント（催事）等による短期的変動。他の 2 つの残差）の 3 つに要因分解を行うことで、トレンド値および曜日調整値を得る。各数値の計算方法・等式は以下の通りである。

原数値 = (各日人数 ÷ 2019 年の 1 日当たり平均人数) × 100 日次（原数値）

トレンド値 = トレンド成分 = 原数値 - 曜日成分 - イベント成分

曜日調整値 = 原数値 - 曜日成分

⑥一部地域の算出除外

位置情報ビッグデータは個人特定がなされないように抽象化処理がなされたものであり、その過程で閾値未満の人流は秘匿されるため、来訪者数・出発者数のカウントから除外される。したがって、来訪者数・出発者数が毎日計測されていない一部地域（離島等）が存在する。このような地域について⑤のような手法による指数化は、ブレが大きくなるなど必ずしも適切でないため、2019 年において来訪者数・出発者数が計測される日が 180 日未満の自治体については指数を算出しない。